

NEWS RELEASE

2021年11月11日

日本豆乳協会

SOY2012

日本豆乳協会

2021年7-9月期の豆乳類の生産量が111,177kℓを達成

～諸要因から生産量が一部落ち込んだものの、回復基調に～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キックコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2021年7-9月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は、111,177kℓとなり、前年同期比97.9%を確認しました。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、最も伸び率が高いのは「豆乳（無調整）」で、生産量は31,969kℓ（98.0%）となりました。また、生産量が最も多い「調製豆乳」は、ほぼ前年並みの54,845kℓ（99.8%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,547kℓ（94.1%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、15,783kℓ（93.2%）となりました。豆乳飲料を中心に、一部、昨年をやや下回るカテゴリーもありましたが、全体では豆乳生産量はほぼ昨年並みに推移しており、出荷量においても生産量と同様の傾向を示しています。一方で、主に業務用として生産している「その他」に分類される豆乳は、外食自粛が続いていることもあり、2021年に入り低迷していましたが、7-9月期においては、4,034kℓ（95.5%）とほぼ昨年レベルに戻ってきています。

豆乳協会では、7-9月期においては、順調に生産量は推移しているものの、コロナ禍における外食の自粛、東京五輪期間中の在宅ワークの推進による都市部のコンビニでの豆乳類の販売減と食生活の変化等が起因し、一部のカテゴリーの豆乳の伸びに影響が出ています。しかし、9月に入り、再び回復基調を示し、健康志向の高まりからも、飲用としてはもちろん、豆乳協会が提案している料理に使用する豆乳の需要が伸び、利用者が拡大しています。

(参考)

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル
田中/岩野

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017